

# (一社)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム

## 平成30年度 第4回ナノ理工学情報交流会

### 「サステナブル社会を見据えたテクノロジー」

---

下記のように、第4回ナノ理工学情報交流会を開催いたします。産学双方の意見交換の場として、コンソーシアム会員をはじめ、ご関心をお持ちの多数の方々のご参加を歓迎いたします。

**主催:** (一般社団法人)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム  
**共催:** 大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センター、  
大阪大学産業科学研究所産業科学ナノテクノロジーセンター

**開催日時:** 平成31年2月19日(火) 13:00~17:20

**開催場所:** 大阪大学豊中キャンパス 文理融合型研究棟3階305号室  
ナノサイエンスデザイン教育研究センター・セミナー室

**遠隔配信地:** 大阪大学東京オフィス(霞ヶ関)、四日市商工会議所

これら会場の詳しい場所については下記をご参照下さい。

[http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/02\\_shakaijin/map/Maptop.htm](http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/02_shakaijin/map/Maptop.htm)

その他、現在ナノ理工学社会人教育プログラムのサテライト教室を開講されている企業様は(遠隔講義配信)による受講が可能です。配信をご希望の場合には、コンソーシアム事務局([nano-cons@nanoscience.or.jp](mailto:nano-cons@nanoscience.or.jp))までご連絡下さい。

**開催趣旨:** ゲリラ豪雨や連続的な猛暑日など、地球温暖化に起因する異常気象が頻発し、我々の生活にも悪影響を与えている。また、日々生産される化学物質による水や空気の汚染も世界規模で進行しており、人類生存のベースとなる地球環境が揺らいでいる。本交流会では、サステナブル社会実現に向けた科学技術の考え方、最新の話題と課題を紹介し、ナノテクノロジーの利活用を考える。

**費用:** コンソーシアム会員、学生及び大阪大学教職員は無料

(コンソーシアム企業会員の場合、社内から何名でも無料で参加が可能です。)

四日市市商工会議所、けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム会員は無料、上記以外の参加者は資料作成費として3,000円/人を頂戴します。

**参加登録:** 氏名、所属、参加会場、連絡先住所を記載の上、メールにて大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局へお申込み下さい。

E-mail: [nano-cons@nanoscience.or.jp](mailto:nano-cons@nanoscience.or.jp)

HP: <http://www.nanoscience.or.jp/>

**登録締切:** 平成31年2月12日(火)

**問い合わせ:** 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局

TEL:06-6853-6859(FAXと共通)

## 【講演プログラム】

13:00   13:10	<b>開会挨拶</b> 大阪大学 ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム 代表理事 伊藤正
13:10   14:10	<b>サステナブルシステムデザイン学の最前線</b> 小林 英樹 氏（大阪大学大学院工学研究科 教授）  持続可能な消費と生産(SCP)は持続可能な 開発目標(SDGs)の12番目のゴールである。サステナブルシステムデザイン学は設計工学、ライフサイクル工学、サステナビリティ学を基盤として、持続可能社会に相応しい人工物システムの設計・マネジメント方法論を体系化することを目指した、SCPの実現に必須の学問領域である。本講演ではサステナブルシステムデザイン学の位置付けと最近の成果、および今後の展望を述べる。
14:10   15:10	<b>新規バイオプラスチック材料創製に向けた合成技術の開発</b> 阿部 英喜 氏（理化学研究所環境資源科学研究センター チームリーダー）  資源の有効利用の観点から、生物有機資源(バイオマス)を原料としたバイオプラスチック材料の開発が強く要望されている。本講演では、バイオマス資源由来の脂肪族ならびに芳香族化合物群を利用し、高性能・高機能な新規ポリマー素材を創製するための合成技術の開発と 特に耐熱性付与を目的とした素材開発の動向について紹介する。
15:10   15:20	(休憩)
15:20   16:20	<b>Panasonicの空気浄化技術</b> 島戸 孝明 氏（パナソニックエコシステムズ株式会社R&D本部 課長）  近年、PM2.5等による空気汚染がグローバルに進行し、健康に対する悪影響が懸念されている。更に、これらの粉塵に付着するウイルス・細菌による健康被害についても喧伝されている。本講演では、大気汚染地域における空気浄化ニーズや対策技術、次亜塩素酸を利用した汚染物質の除去技術を紹介すると共に、「快適空気環境」実現への展開を述べる。
16:20   17:20	<b>廃プラスチックによる環境汚染の現状と課題</b> 土居 健太郎 氏（環境省環境再生・資源循環局 総務課長）  日常生活において大量発生するプラスチックごみによる海洋汚染が大きな問題となっている。このままでは2050年には、魚の重量を上回る量のプラスチックが残存する予測も出ており、地球規模での環境汚染が懸念されている。本講演では、プラスチックによる海洋汚染の実態を踏まえ、環境省の今後の取組みを紹介する。

### オーガナイザー:コンソーシアム企画運営委員

沖野 剛史	(株)東芝
小澤 伸二	(株)カネカ
前田 和幸	住友電工(株)
村山 浩二	(株)村田製作所
山本 宏	BASFジャパン(株)
若林 信一	パナソニック(株)
伊藤 正	大阪大学
藤岡 透	大阪大学